

令和4年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	あさぎり・おおくら総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	朝霧・大蔵

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 困りごとのある方や地域住民が早期に支援につながるよう、センターの周知をする。 ● 新たな会場でサテライト相談を年6回実施する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 7月・11月にセンター広報誌を作成。相談が少ない集合住宅等に全戸配布して相談窓口を周知した。 ● 地域のつながりがない集合住宅やセンターに相談が増えている地域に専門職がアプローチし、出張相談会を6回開催した。住民からの要望のあった集会所でも相談会を開催した。 	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療機関が、相談先紹介時に広報誌を活用している。 <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談者には随時訪問にて対応しているため、出張相談のニーズが低い。来年度からは、相談会を健康教室開催等と同時開催する。
			<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度の虐待防止研修会のアンケートを基に、虐待対応の流れ、早期相談の説明や事例検討会等、具体的内容を決定し、居宅向け勉強会を年1回開催する。 ● 居宅巡回のテーマや時期を決めて各居宅介護支援事業所に事前に案内し、年1回（月2か所ずつ）居宅巡回を実施する。 	4
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護支援専門員・主任介護支援専門員同士のネットワーク強化のために意見交換・情報交換の場を設定する。 ● 民生委員と専門職がお互いの役割を理解できるよう、年1回交流会を行う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 圏域内の居宅介護支援事業所同士のネットワーク強化を目的とした交流会を開催した。 ● 民生児童委員と介護支援専門員の交流会を開催した。（計3回） 	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員同士で交流し、ネットワークの強化につながった。 ・救急れんらくばんの活用等について合意形成ができた。 <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員と民生児童委員が、日常的に連携できる仕組みがない。
			<ul style="list-style-type: none"> ● まちなかゾーン会議・地域ケア個別会議から地域課題の分析を行い、分析した結果をまちなかゾーン会議で共有し、地域の課題について検討する。 	4
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者が自立した日常生活を送れるよう、インフォーマルサービスを含む社会資源から自身が利用するサービスの自己選択・自己決定の支援をする。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ● ケアプランへの位置づけの意識が高まるようインフォーマルサービス一覧表の情報を更新して介護支援専門員に配付した。 ● 大蔵地区のサロン、体操グループのマップを作成し、圏域の介護支援専門員に情報提供を行った。 ● Ayamuを活用し、地域活動の最新情報や写真、チラシをアップし、センター内で共有した。 	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルサービスの情報提供ができています。 ・Ayamuの活用により、センター内で地域活動の情報が見える化できています。 <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の場への移動手段の課題があり、実際にインフォーマルサービスにつながりにくい。 ・センターの介護支援専門員は、パソコン整備環境からAyamuを活用しにくい。

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
生活支援体制整備事業	●住民と福祉施設や事業所、民間企業等が協力して地域の見守り活動が行えるよう、高齢者、障害者、子ども、子育て世代の視点などを地域の方が学ぶ機会を持つ。	4	●大蔵地区の商店に対し中崎地区社会福祉協議会と協働し、見守りネットワーク構築に取り組んだ。 ●中崎地区社会福祉協議会と地域の障がい福祉事業所を訪問し、事業所の活動内容や特色を伺い、地域と事業所の関係構築を図った。 ●人丸地区社会福祉協議会主催の認知症VR体験の運営支援を行い、体験を通じて自分事となり、認知症になっても住みやすい地域を住民同士で考える意見交換につなげた。 ●朝霧まちづくり協議会が実施する防災イベント内で、まちなかゾーン会議で作成した防災時の口腔ケアやフレイル予防、救急れんらくばんなどの情報を盛り込んだクイズを実施した。 ●「配慮が必要な方の視点を知る体験会」を福祉用具（車いす、杖、歩行器）を用いて実施した。（計2回）	【強みと考える点】 ・地域の事業所や商店とのネットワークづくりが行われている。 ・まちなかゾーン会議や朝霧校区まちづくり協議会と連携ができています。 ・配慮が必要な方の視点を学ぶ際に協力的な福祉用具事業所が多く、スムーズに連携できた。
				【弱みと考える点】 ・地域内にある生活支援活動の把握が不十分である。 ・防災の取り組みが多様であり、地域性に応じた具体的な取組を考える必要がある。
在宅医療介護連携	●医療と介護の連携上の課題を医療機関等と共有する。 ●地域住民や専門職のACPに対する理解が深まるよう、ACP講座を開催する。	4	●医療機関とのネットワーク構築を目的とし、圏域内の医療機関の巡回を実施した。（7カ所） ●介護支援専門員と民生児童委員を対象に交流会を行った。 ●住民対象にコミセンでACP講座を開催した。（計2回） ●センター広報誌でACPの啓発を行った。	【強みと考える点】 ●医療機関へセンターの機能を周知することができた。 ●センターから住民に対し、医療機関の意見を活かした受診支援が行える。 ●介護支援専門員、民生児童委員とACPの概念について共有できた。
				【弱みと考える点】 ●医療機関に対し、センターの役割周知の不十分さがある。 ●外来通院の支援において、センターと病院との役割分担が整理されていない。 ●各機関での支援が効果的につなげていない。
認知症総合支援事業	●認知症について理解を深めることにより、本人やその家族の困り事を我が事として捉えることができるよう、オレンジサポーターを200名養成する。	4	●大蔵地区の人権教育推進員と協働で、自治会など小地域単位で認知症学習会を開催し、認知症理解を啓発した。 ●人丸児童クラブ・松が丘小学校にオレンジサポーター養成講座を開催した（311名養成）。 ●小・中学校を訪問し、養成講座開催の働きかけを行った。 ●シルバーサポーター養成講座を開催。地区内のシルバーサポーターにヒアリングを行い、関心の高い活動に積極的に参加いただく仕組みづくりに努めた。 ●キャラバンメイト交流会を開催し、交流を図るとともに、活動グループを構成し、より活動しやすい体制づくりを行った。	【強みと考える点】 ・小地域で認知症啓発を行うことで、住民の認知症に対する理解が進んでいる。認知症予防として、つながりが大切であるという意識が芽生えつつある。 ・キャラバンメイトやシルバーサポーターの地域活動の場を広げられるように組織化できている。
				【弱みと考える点】 ・認知症当事者からの発信ができていない。 ・子どもが学んだことを親世代へ伝えることで認知症理解を広めたいが、学校でオレンジサポーター養成講座の開催ができていない。
その他				【強みと考える点】
				【弱みと考える点】

【達成度】 … 5（十分に取り組んでおり、目指す成果に至った） / 4（概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった） / 3（一部着手したが、取り組んでいない部分がある） / 2（取組計画の立案等はしたが、着手できなかった） / 1（取組計画の立案等に至

令和4年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	きんじょう・きぬがわ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	錦城・衣川

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	<ul style="list-style-type: none"> ●総合相談窓口周知のために、未実施の地域2か所でサテライト相談会を実施する。 ●介護保険サービス事業所等とともに当事者に寄り添う継続的な支援を実施できるよう、話し合いを実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ●広報誌を発行。(1700部) ●大観まちづくり協議会、地域の集い等と協働しサテライト相談を実施。 ●東戎町自治会館でのサテライト相談開催に向けて、民生児童委員に参加者を増やすための周知方法等のヒアリングを実施した。 	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自治会など地域住民の協力を得て、広報誌の回覧や掲示が行えた。 <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護保険サービス事業所との交流会開催に向けて、目的や目標を事業所へ発信できていないため、次年度に取り組んでいく。
権利擁護事業	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者虐待防止に向けて、早期発見・早期対応の大切さを地域住民に啓発をする。特に今年度は、認知症介護の大変さ、高齢者の権利を守る介護について、介護者の孤立化や抱え込みの防止等の重要性についても講話内容に盛り込む。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ●通いの場6箇所が高齢者虐待防止のチラシを配布し、高齢者の権利を守る介護等を盛り込んだ講話を行った。また、地域住民にも高齢者虐待の早期発見について啓発を行った。 ●通いの場にて高齢者虐待や消費者被害についての講話を6回行った。講話の中で認知症の方が消費者被害に遭うことが多いことも伝えた。 	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●啓発活動を継続して実施した。 ●生活支援コーディネーターが定期的に通いの場に入出ししており、啓発しやすい場の環境の構築ができています。 <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者虐待についての意見交換が活発に行えず、より身近に感じてもらえるよう工夫が必要であった。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ●介護支援専門員が本人本位のケアマネジメント実践が行えるように、アセスメント力、対応力向上を図るとともに本人・家族、関係者が話し合える機会を持つよう支援者支援を行う。 ●介護支援専門員と民生児童委員の顔の見える関係づくりのために、両者が話し合える機会づくりをする。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ●オンラインによる介護支援専門員交流会を開催し、意見交換、および事例検討を行った。 ●錦城地区は民生児童委員と圏域内の介護支援専門員と交流会を行い、顔の見える関係づくりのための機会を設けた。 ●衣川地区は民生児童委員から委員の交代が多く次年度開催の提案を受けたため、今年度は未実施。 	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護支援専門員と積極的な意見交換ができています。 <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護支援専門員と協働して地域課題を整理する必要がある。 ●民生児童委員との交流会を開催する意図を民生児童委員や介護支援専門員に明確に伝えることで顔の見える関係の先に進むことができる。 ●オンラインによる介護支援専門員交流会では対面に比べて一体感に欠けるため、運営等に工夫が必要。
地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none"> ●地域のなかでの生活上の困りごとを、まちなかゾーン会議等で共有・意見交換を行うとともに、広報紙等で地域で話し合っている内容を発信する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ●各小学校区単位で地域課題の抽出を行った。 ●錦城地区まちなかゾーン会議にて「高齢者の健康情報」として資料を作成し、健康課題を提供し、話し合いを行った。 ●錦城地区まちなかゾーン会議の構成員に居宅や訪問看護が新たに加わった。 	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事例等地域ケア会議以外からも地域課題の分析を行っている。 <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域ケア会議の開催数が少なく、会議からの地域課題抽出が行えていない。

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	●介護予防サービスや地域のインフォーマルサービスの活用等により、地域住民ができる限り自立した生活が送れるように支援する。 ●利用者の生活課題から地域課題を抽出し、地域づくりに向けた取り組みにつなげる。	3	●インフォーマル資源の特徴について、モニタリングの際等にチラシ等を用いて利用者に情報提供を行った。ひとり暮らし高齢者の「救急れんらくぼん」の作成支援を行った。 ●利用者の生活上の困りごとや要望を把握するため、記録表を作成し担当利用者の声を書き込み集約する流れを作った。現在まだ集約している段階で、資料にまとめて地域住民と共有するには至っていない。	【強みと考える点】 ●見守りや通いの場など、地域の中にインフォーマルサービスが存在し、支援者から積極的に利用者に情報発信ができています。
				【弱みと考える点】 ●利用者の声を集約しているが、まとめられていない。まとめたものをどのように地域住民と共有するか、計画を立てる必要がある。
生活支援体制整備事業	●高齢者の支援ニーズや社会資源の状況を把握し、見える化する。	3	●地域活動の場を訪問し、聞き取った要望から講座を実施し、参加者の感想から生活への不安や困りごとの把握を行った。 ●活動の主催者等と共に、体操や講座等通いの場づくりへの取り組みの検討を行った。 ●地域活動後、主催者との情報共有を図り、ニーズに合った地域活動ができるように支援を行った。また、把握した内容を踏まえ、ニーズに合った講座を実施した。 ●社会資源の状況は把握できたが、一部の校区では見える化には至っていない。	【強みと考える点】 ●つながりの少なかった団体との関わりを持ち、関係形成を図ったことで、ネットワークの構築がなされた。 ●活動主体の住民との情報共有を繰り返すことで、関係性の構築と主体性の形成の支援が行えた。
				【弱みと考える点】 ●参加者に加えて、参加していない住民のニーズ把握を行うために、地縁団体との関係構築を行う必要がある。
在宅医療介護連携	●地域住民がどう生きたいのか(どのような医療や介護を受けたいか)、どう最期を迎えたいかを考えるきっかけづくりのためにACPを啓発する。	4	●通いの場、まちなかゾーン会議主催の介護予防教室で講話を実施した。(5回) ●相談のあった対象者に、自身が受けたい医療や介護について、『あなたの思いをお聞かせください』を活用して聞きとりをし、支援につなげた。 ●圏域の医療機関4施設に巡回を行い、センターの周知と連携上の課題や改善点について共有した。	【強みと考える点】 ●ACPIについて初めて耳にした住民が多く、啓発の機会となった。再度、開催してほしいとの要望の声がある。
				【弱みと考える点】 ●対象とする医療機関のすべてに巡回できていない。
認知症総合支援事業	●認知症の早期発見・早期支援推進に向けて要援護者見守りSOSネットワーク協力者登録数を増やす。オレンジサポーター養成講座を年間5回以上開催する。	5	●1月末の時点で13回実施した。オレンジサポーター講義の中で協力者登録の説明を行っている。現在22名の登録ある。 ●地区の民生児童委員やサロンの代表者へ働きかけたことにより、1件のオレンジサポーター養成講座開催に繋がった。また、自主活動グループやまちづくり協議会に対し、実施に向けた提案ができており、2件の団体から来年度実施することで同意が得られた。	【強みと考える点】 ●地域での活動を通じて新たなネットワークができた。 ●次の活動につながる基盤ができた。
				【弱みと考える点】 ●小学校や中学校単位でのオレンジサポーター養成講座を実施したいが、学校へのアプローチの糸口が見つかっていない。
その他				【強みと考える点】
				【弱みと考える点】

【達成度】…5（十分に取り組んでおり、目指す成果に至った）／4（概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった）／3（一部着手したが、取り組んでいない部分がある）／2（取組計画の立案等はしたが、着手できなかった）／1（取組計画の立案等に至

令和4年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	にしあかし総合支援センター
運営主体	社会福祉法人社会福祉協議会
担当中学校区	望海、野々池

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	●地域住民と協議を行い、必要性の高いエリアでサテライト相談会が開催できるよう働きかけを行う。	4	●弁財天厚生館を活用した新たな居場所・サテライト相談会を実施した。 ●宮の上の健康測定会にてサテライト相談会を新規開催した。 ●センター啓発のため、住民の出入りの多いコンビニや銀行・郵便局、高齢者が立ち寄る機会の多い場所(医療機関や薬局、整骨院、銀行、商店等)を中心にセンターカレンダーを計780部配布。配布後1か月弱で、薬局や銀行等から児童や障がい者関連等の相談が8件入った。	【強みと考える点】 ・住民にセンターの役割が認識されている。 ・民間企業(銀行等)からは高齢領域以外の相談(障がい者虐待疑いの相談等)が入り、早期発見につながった。 ・民生児童委員からの相談が増加しており、住民の困りごとがより早期に発見できるようになった。 【弱みと考える点】 ・健康教室と同時開催のため、相談者が限定的かつ高齢者に偏っている。
権利擁護事業	●高齢者虐待の早期発見だけではなく、サービス事業所や住民が高齢者虐待防止の知識について学ぶ場を提供することで、虐待を予防することができる。 ●住民とセンターが協働して、問題発生時、迅速に消費者被害・特殊詐欺の対応・再発防止啓発を行うことができる。	5	●10月に高齢者虐待の予防について、居宅介護支援事業所や介護サービス事業所に勉強会を開催し38人が参加した。 ●来年度開催予定の「地域での【正しい介護の知識】の勉強会」にも継続参加の意向を勉強会参加者4割から確認できた。 ●地区社会福祉協議会の生活安全部へ働きかけた。 ●特殊詐欺防止のチラシを住民に1082枚配布して注意喚起を行った。 ●あかし警察生活安全課と情報交換を行い、警察からの要望で警察と介護支援事業所が直接情報交換できるよう取次ぎを行った。	【強みと考える点】 ・ボランティア、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所が中心となり、地域活動に参加している。 ・居宅介護支援事業所と警察が直接つながることで、新たなネットワークができた。 ・高齢者虐待の通報、相談後の動きを詳しく説明することで、通報時に居宅介護支援事業所が感じる不安を解消できた。 【弱みと考える点】 ・健康教室の場で啓発を行っているが、相談者が限定的かつ高齢者に偏っている。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	●介護支援専門員が地域資源の視点に加え、緊急時や災害時の対応について意識し、自立支援に向けたケアマネジメントを実践することができる。 ●介護支援専門員がケアマネジメントを自己決定・自己実現の視点を持って実施できる。	4	●介護支援専門員や介護保険サービス事業所等との「防災」や「高齢者虐待の早期発見」等をテーマにした交流会を開催した。 ●介護支援専門員と民生児童委員との懇談会を行い39名参加した。 ●居宅介護支援事業所に巡回訪問し、ACPの説明を行った。またセンター内の介護支援専門員に勉強会を開催した。	【強みと考える点】 ・懇談会の回を重ねるごとに、救急れんらくばんの認知度が上がっている。 ・ケアプランに緊急連絡先や避難場所の記載が増えている。 【弱みと考える点】 ・介護支援専門員がACPの具体的な取り組みの実行には至っていない。 ・懇親会等に参加する居宅介護支援事業所に偏りがある。 ・参加していない居宅介護支援事業所への周知・啓発が不十分である。
地域ケア会議	●認知症や要介護状態など自分の意思が発信しづらい状況であっても、自ら意思決定を行い生活することができるよう支援する。	4	●オレンジサポーター養成講座を開催した。 ●野々池地区まちなかゾーン会議では、老老世帯への見守りをテーマに協議を実施した。 ●まちかど健康教室の特別版(望海・野々池中学校区の両地区対象)として「命の授業」を開催した。 ●花園地区座談会にて地域課題について住民と話し合い「みんなの広場」を開催した。	【強みと考える点】 ・まちなかゾーン会議の委員と幅広い世代に支援の目を向ける必要性を共有できた。 ・住民同士での見守り体制がボランティアグループ中心にできている。 【弱みと考える点】 ・子ども分野とのつながりが少ない。

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	●地域住民が、健康意識を高めながら自立した生活が送れるように支援する。	5	●野々池地区では地域の要望で、新たに健康測定会を立ち上げた。 ●宮の上地区で健康測定会を開催した。	【強みと考える点】 ・地域住民に意欲、実行力が高く、催しが開催しやすい。 ・地域活動が少なくとも、民生児童委員の協力のもと住民同士助け合う力がある。 【弱みと考える点】 ・若い世代の担い手が不足している。
生活支援体制整備事業	●孤立死を予防するため身近に参加できる居場所づくりの支援を行う。また、居場所づくりを通じて住民の持つ個々の力(専門性・人間性・経験等)を発見し、地域福祉活動に参加し、その力を発揮し活躍できる体制づくりを行う。	4	●計4回の健康測定会を開催した。 ●宮の上地区で自主活動グループ、民生児童委員と協働し、健康測定会を開催した。 ●花園地区住民座談会、みんなの広場アンケートから「つながり」と「備え」について地区の想いを共有。「みんなの広場」で地域住民に向けて現状と課題、未来へ向けた想いを発信した。(来場者42名参加者17名通訳者7名)	【強みと考える点】 ・住民が主体となり、気になる方への声掛け活動や血圧等測定、相談対応を行った。 ・勉強会等の取り組みに協力する意向を、専門職が意思表示している。
	●住民が正しい介護や認知症の知識を得ることで、介護負担軽減に繋げ、住民と専門職で虐待防止ネットワークが構築できる。	4	●地域ケア会議や権利擁護事業と連動し、専門職・住民向けに研修会を2回開催した。	【弱みと考える点】 ・イベント参加者が地域で活躍できる方法を見出せていない。
在宅医療介護連携	●地域住民が受けたい医療やケアを自ら選択し、自分らしく生活をして行くために、終活、ACPを普及・啓発し伝え手を増やす。 ●医療巡回で得た情報を活用し、地域で在宅医療を実施している医師と協働し勉強会を開催することで、医療介護関係者・住民とのネットワーク構築を図る。	5	●住民向けにACPの講座を計22回実施した。 ●サービス事業所や住民にも働きかけ、20～50歳代の層にも周知した。 ●小中コミセン、厚生館に協力を得てACPツールを約500枚設置した。 ●8月に命の授業の勉強会を圏域内医師と協働で実施し65名参加があった。 ●にしあかし版ACPの勉強会を3回実施し、将来の人生設計について学ぶ機会を提供した。	【強みと考える点】 ・圏域内にACPIに力を入れている医師がいる。 ・住民の関心が高く、サービス事業所や地域住民同士が自ら周知をしていた。 ・ACPを20～50代の世代に啓発できた。 【弱みと考える点】 ・通いの場への若い世代の参加が少なく、広く周知が出来ていない。 ・ACPの必要性の認識については、住民、福祉専門職、医療機関でばらつきがある。
認知症総合支援事業	●認知症になっても排除されず、住み慣れた地域で暮らせるように、若い世代にも働きかけ、住民の知識の向上や認知症に対する理解ができる。 ●認知症になっても信頼している人に、望む暮らしを伝えることができる。	5	●オレンジサポーター養成講座を16件(254名)行った。 ●認知症家族会、虐待防止予防研修等でACPの講座、認知症パネル、家族会の情報提供を行った。 ●健康教室とサロンで地域住民へ認知症の勉強会を6回実施した。 ●西明石サポーターファミリーでシルバーサポーター講習会を開催した。 ●見守り事業所(セブンイレブン4店舗)へオレンジサポーター養成受講の開催を働きかけた。	【強みと考える点】 ・オレンジサポーター養成講座を昨年度と比べ多く実施することができた。 ・シルバーサポーター3名と協力し、講座の実施ができた。 ・地域住民がオレンジサポーター養成講座受講に、意欲的に取り組んでいる。 【弱みと考える点】 ・オレンジサポーター養成講座において全キャラバン・メイトと協働できていない。 ・健康教室との抱き合わせの啓発では対象者が固定される。 ・住民の高齢化で担い手が不足している。 ・若い世代への働きかけが不十分である。
その他				【強みと考える点】 【弱みと考える点】

【達成度】…5(十分に組み込んでおり、目指す成果に至った) / 4(概ね組み込んだが、成果は十分ではなかった) / 3(一部着手したが、組み込んでいない部分がある) / 2(取組計画の立案等はしたが、着手できなかった) / 1(取組計画の立案等に至らなかった)

令和4年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	おおくぼ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	大久保、江井島、大久保北、高丘

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	●出張相談や広報活動を通じ、住民にとって相談しやすい身近なセンターを目指す。	4	●圏域内で新たにサテライト相談を2か所増やし、1か所は試行的に実施している。 ●センター広報紙を7月・1月の2回発行し、センターの役割・機能の啓発に務めた。 ●6月に明石城西高校にて、福祉学習として高齢者心理・認知症についての講話を実施。センターの役割・機能の啓発に務めた。	【強みと考える点】 ・地域の集い場にセンター職員が出向き、相談所とすることで、相談しやすくなったと意見をいただいている。 【弱みと考える点】 ・住民へのセンター機能の周知が不十分であるため、必要最適なサービスにつながらない恐れがある。
権利擁護事業	●住民や居宅介護支援事業所との勉強会を通して、普段から気軽に相談できる体制を構築することで、相談支援体制の強化を図り、早期に相談する事ができる。 ●居宅介護支援事業所に対して権利擁護に関する出前講座を(年1回以上)実施する。 ●サロン等で、消費者被害防止のための啓発や、権利擁護に関する講話を実施する。	4	●介護支援専門員の通報への精神的な負担の軽減による高齢者虐待の早期発見を目的に、2か所の居宅介護事業所へ虐待に関する出前講座を実施し、通報者の心理・具体的な虐待対応の流れなどを共有をした。 ●民生児童委員協議会・サロン等において国民生活センター、東播磨消費者センター発行の消費者被害のチラシ及び年末年始にかけてセンター内で作成した消費者被害防止のためのチラシを配布し、注意喚起を行った。	【強みと考える点】 ・センター内4地区の社会福祉士との権利擁護のケース共有、情報共有、検討等を実施し、お互いのスキルアップに繋がり、適切な支援を行うことができている。 ・民生児童委員、介護支援専門員との顔の見える関係性の構築を進め、双方に相談しやすい体制づくりが行えたことで早期に相談対応を進められた。 ・介護支援専門員との関係性を構築することで、担当介護支援専門員とセンター職員とが一体的に利用者に対し適宜・適切な支援を実施することができている。 【弱みと考える点】 ・介護サービス事業所に向けた高齢者虐待、消費者被害等の対応等に関する啓発が不十分である。
包括的・継続的ケア相談支援事業	●居宅介護支援事業所等が地域とともに支援のネットワークを構築し、利用者の課題を解決できるようなサポートや、情報提供等を行うことができる。	4	●介護支援専門員と民生児童委員との交流会を大久保北地区をモデルケースとして実施し、顔の見える関係の1歩をつくった。 ●「法テラスとは何か」をテーマに研修を実施。後見制度等につなぐ方法を共有した。 ●居宅介護支援事業所(明石市サービス事業者連絡会居宅部会)と共に事例検討会を年2回開催し、介護支援専門員の課題を共有した。	【強みと考える点】 ・民生児童委員と介護支援専門員の連携の意識ができ、顔の見える関係が構築されてきている。 ・センターを含め、地域の介護支援専門員間で抱える課題が共有されてきている。 【弱みと考える点】 ・居宅介護支援事業所が閉鎖されたり、介護支援専門員の退職により引き継ぎがスムーズにできない場合がある。
地域ケア会議	●複数の個別事例から地域課題を明らかにし、地域課題の解決に向けて地域住民と取組内容を協議することができる。 ●抽出した地域課題を地域住民とともに検討する。	4	●センター内で抽出した課題をゾーン会議等にて住民、関係機関と共有し、課題解決方法を協議した。 ●保健所と協働してフレイル予防講座を実施した。 ●認知症のある人の地域生活の継続について、支援関係者等(担当介護支援専門員、民生児童委員、近隣住民、自治会長)にて地域ケア会議を開催した。	【強みと考える点】 ・センターが個別支援、地域支援を実践する中で得た情報をもとに把握した地域課題を住民、多機関、多職種と共有できる課題解決に向けた連携体制がある。 【弱みと考える点】 ・まちなかゾーン会議の取り組みが各圏域ごと大きく異なるため、市域課題の提言に至りにくい。

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	●要支援者等の地域での自立支援に向け、インフォーマルサポートを位置づけたケアプラン作成につながるよう、介護支援専門員に事例検討やケース相談等の機会を通じて、情報提供等を継続する。	3	●地域の居宅介護支援事業所(明石市サービス事業者連絡会居宅部会)と連携し、事例検討会を2回開催し、事例を通じてインフォーマルサービスや介護保険外サービスの情報等を共有することで自立支援の視点を育んだ。 ●センター内では、プラン専任の介護支援専門員の定例会議を開催し、事例検討会の機会を設け意見交換を行った。	【強みと考える点】 介護保険外のサービス等に注目できる機会が増えてきている。 【弱みと考える点】 圏域内の居宅介護支援事業所に、インフォーマルサービスの活用や連携の方法の周知が十分できていない。
生活支援体制整備事業	●住民とのネットワークの構築により、地域内のニーズ把握や共有を行い、地域住民が「こうありたい」と望む地域の姿(住民が望む生活)をとともに検討することができる。	4	●センターが参加する地域活動に対するアンケート結果や個別事例における生活課題から、センター機能の周知不足を仮説として設定し、今後の啓発について検討した。 ●イオン、ビブレ、江井島総合市場等でサテライト相談会を実施。企業との協働に向けて関係構築を行った。	【強みと考える点】 地域の活動者や自治会長、コミセン等とセンターの良い関係性ができている。地域活動に積極的に介入する企業との連携が取れている。 【弱みと考える点】 住民への聞き取りやアンケートを実施することで、地域ニーズの把握はできているが、具体的な資源開発にはつながっていない。
在宅医療介護連携	●医療巡回を行うことで、地域にある医療機関と福祉専門職との連携における課題や、強みを整理し、連携強化を図ることができる。 ●ACPIについて住民が興味関心を持てるよう情報提供を行う。	3	●圏域内で在宅医療に力を入れている医療機関を中心に巡回訪問を実施した(6機関)。医療機関の体制や医師の考え、方針を知ること、スムーズな連携を図る際の参考とした。 ●ACPの住民への啓発方法を検討するため、まずはセンター職員がACPの目的や考え方を深める事ができるように内部研修を実施した。	【強みと考える点】 圏域内には在宅医療に理解のある医師が多い。巡回訪問を継続する事で信頼関係を構築し、更なる在宅医療の発展を目指す。 【弱みと考える点】 退院時における地域生活課題について、医療機関と在宅支援関係者間での共有が十分でない。 ACP普及に関しては地区により住民の関心度に大きな差がある。
認知症総合支援事業	●幅広い世代に認知症の理解啓発を行い、認知症になっても社会参加し続けられるような地域づくりを目指す。	4	●圏域内のキャラバンメイト同士での意見交換を行った(2回)ところ、オレンジサポーター養成講座への参加が促進された。 ●小学校3校、中学校1校、高校2校でオレンジサポーター養成講座を開催した。 ●認知症カフェへの運営支援を行い、新規メンバーご家族の参加が増加した。 ●江井島地区内の認知症びあサポーターから思い悩む本人や家族への支援に協力いただけることとなった。	【強みと考える点】 小・中・高等学校からオレンジサポーター養成講座について毎年継続しての依頼を受けている。 シルバーサポーターとの顔の見える関係性ができた。 【弱みと考える点】 学生向けのオレンジサポーター養成講座には、多くのキャラバンメイトの協力が必要となるが確保が難しい。 新型コロナウイルスの影響で一部の認知症カフェの開催ができていない。 認知症の正しい理解が全ての地域に行き渡っておらず、家族が疲弊している地域がある。
その他				【強みと考える点】 【弱みと考える点】

【達成度】…5(十分に取り組んでおり、目指す成果に至った) / 4(概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった) / 3(一部着手したが、取り組んでいない部分がある) / 2(取組計画の立案等はしたが、着手できなかった) / 1(取組計画の立案等に至らなかった)

令和4年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	うおずみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人 明石市社会福祉協議会
担当中学校区	魚住東・魚住

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	●相談内容を分析し、地域特性を地域の関係者（民生児童委員、地域の各種団体、医療機関など）と共有することにより、地域の関係者から早期に相談が入るようになる。	3	●重度化してから相談が入る地域の経年的な相談内容等を分析し、自治会、民生児童委員と、今後地域における見守り体制をどのように構築していくか検討する会議を開催した。 ●センターの広報誌を、まちづくり協議会等地域組織と一緒に作成することにより、地域の情報も掲載でき、地域密着型の紙面が作成できた。	【強みと考える点】 重度化してから相談が入る地域について検討したことで、地域組織との連携が深まったことにより、組織役員等から早期に相談が入るようになった。 【弱みと考える点】 地域関係者とながりの薄い住民にまで、まだセンターの周知が図れていないため、今後も早期に相談が入るようセンターの周知を行っていく必要がある。
権利擁護事業	●介護保険事業所や民生児童委員等に、高齢者虐待の対応や防止のための普及啓発を行うことにより、早い段階での相談が入る体制をつくる。 ●消費者被害の実態把握を行い、被害を未然に防止することが出来るように、地域住民や民生児童委員協議会・居宅介護支援事業所等と情報を共有する。	4	●高齢者総合支援室と連携し、居宅介護支援事業所の介護支援専門員対象に高齢者虐待研修を開催し、虐待対応における関係機関の役割の理解を深めた。 ●民生児童委員と居宅介護支援事業所の介護支援専門員との交流会において、高齢者虐待防止における相互の協働体制の構築を図った。 ●地域住民に向け高齢者虐待の勉強会を実施し、早期発見の重要性について啓発した。 ●デイケア/デイサービス事業所を対象に社会福祉士巡回を行い、高齢者虐待における早期発見の重要性について啓発した。 ●消費生活センターと昨年度の消費者被害について情報共有を行い、広報紙を活用して住民に向け消費者被害防止を啓発した。 ●警察と連携し、高齢クラブと自治会対象に特殊詐欺についての出張講座を開催し、特殊詐欺被害防止について啓発を行った。	【強みと考える点】 早期発見・早期通報につながっており、連携体制が構築できている。 自治会・民生児童委員・介護サービス事業所など多方面から、権利擁護に関する研修依頼を受けており、高齢者の権利擁護に関する啓発が行えている。 【弱みと考える点】 訪問看護事業所・訪問介護事業所など、高齢者の権利擁護に関わる啓発が十分に行えていない機関がある。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	●包括的・継続的ケアマネジメントが実践できるよう、地域におけるフォーマルサービスとインフォーマルサポートが連携を行えるよう、顔の見える関係づくりの場を設ける。	4	●隔月で開催している居宅介護支援事業所の介護支援専門員対象の研修会にて、地域のサロンの紹介を実施し、センターにて作成した地域資源マップを配布した。 ●民生児童委員と居宅介護支援事業所の介護支援専門員との交流会を実施し、顔の見える関係性の構築をはかった。	【強みと考える点】 民生児童委員との交流会については、民生児童委員、居宅介護支援事業所の介護支援専門員両者から、定期的な交流会開催の希望があり、地域での両者の連携に前向きな意見が多く聞かれた。 【弱みと考える点】 サロンの周知について居宅介護支援事業所の介護支援専門員に生活支援コーディネーターとの同行を提案したが、希望者がなかった。
	●地域住民に向けて自立した生活を地域社会のなかで継続できるような啓発活動などを、居宅介護支援事業所と協働して行う。	4	●地域住民向けのACPIについての研修会に、居宅介護支援事業所の介護支援専門員も参加し、介護支援専門員がケアマネジメントの中で経験したACPIについて地域住民と共有する場を持った。	【強みと考える点】 研修会開催地域に位置する居宅介護支援事業所が参加することで、事業所は地域特性の理解につながり、住民は事業所を身近に感じる事ができた。 【弱みと考える点】 居宅介護支援事業所の介護支援専門員は多忙であり、研修会やその打ち合わせの日程調整に苦慮する場面があった。

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
地域 ケア会議	●地域に必要な社会資源の開発のために、まちなかゾーン会議やセンター主催の会議を通して抽出した地域課題を関係する地域団体と協議し、検討する機会を持つ。	3	●敬老会において住民へアンケートを実施し、アンケート結果をまちづくり協議会と共有し、地域課題について協議を行った。 ●まちなかゾーン会議において、地域課題を協議し、課題解決のための活動内容を検討した。	【強みと考える点】 地域課題の解決に向けて、関係する地域団体と協働関係が構築されている。
				【弱みと考える点】 個別事例件数が少なく、経年的な積み上げが必要である。
介護予防 マネジメント・ 指定介護予 防支援	●利用者の自立に向けた日常生活の提案を行うために、確実なアセスメントに基づき、地域におけるフォーマル・インフォーマルサポートの適切な活用が行えるような研修などの場を設ける。	4	●インフォーマル資源についての研修会を実施するとともに、インフォーマル資源マップを作成し、ケアマネジメントにおいて活用できるようにした。 ●要支援者等の望む暮らしの実現に向けたケアマネジメント力の向上に向け、センター職員対象のアセスメント勉強会を実施した。	【強みと考える点】 センター職員が把握しているインフォーマル情報を介護支援専門員とも共有し、情報活用ができています。
				【弱みと考える点】 情報共有は図れているが、コロナ禍で地域活動が制限されたため、介護支援専門員がサロン等へ参加できる機会が少なかった。
生活支援体 制整備事業	●住民組織と協力し、活動や参加に関する地域の高齢者のニーズを把握し、地域ごとの課題を共有する。 ●共有した課題解決に向け、まち協、自治会、その他関係する地域団体と協議の場を設け、資源開発に向けての話し合いを行う。	4	●住民と一緒に地域課題を共有し、解決に向けて協議した。自治会や教育機関等と連携し、防災に関するニーズの把握に努めた。 ●まちづくり協議会主催の敬老会で、高齢者を対象に地域活動に関するアンケート調査を行い、住民のニーズを把握した。ニーズをまちづくり協議会と共有し、通いの場開発に向けて地域住民に呼びかけを行い協議を実施した。 ●通いの場のない地域において、有志で活動している住民と話し合いを行い、住民のニーズを聞き取り、社会参加と介護予防に資する資源の開発を検討した。	【強みと考える点】 まちづくり協議会や住民と協議を繰り返すことで、意見交換しやすい関係づくりができています。
				【弱みと考える点】 活動に参加できていない住民のみの調査であるため、参加できていない住民の声を拾っていく必要がある。また活動の立ち上げに向けて、担い手の確保にまで至っていない。
在宅医療介 護連携	●ACPの普及啓発を行う。 ●医療機関が抱えている医療と介護の連携における地域課題を明らかにする。	3	●ACPの記事を広報誌に掲載した。 ●地域に根差した寺の住職と居宅介護支援事業所の介護支援専門員が講師となり、ACPを考えるきっかけとなる講演を行った。 ●医療巡回後、聞き取り内容を分類、整理して見えた課題をまとめた。	【強みと考える点】 広報誌により多くの住民に啓発できている。
				【弱みと考える点】 「あなたの思いをお聞かせください」のツールの活用ができていない。 【強みと考える点】 医療機関（医師）とセンター職員と顔の見える関係構築ができた。
認知症総合 支援事業	●認知症の理解を地域住民に普及啓発するための研修会を開催することで、認知症の早期発見、早期対応につなげる。	3	●オレンジサポーター養成講座を年間10回開催し、その後、圏域内の高校に毎年実施している。 ●西部図書館や小学校2校からオレンジサポーター養成講座の新規依頼があり開催した。 ●シルバーサポーター養成講座（2地区）、シルバーサポーター交流会を実施して意見交換を行った。	【強みと考える点】 オレンジサポーター養成講座を同一団体等に継続して実施し、そのすべてにセンターが出務したため、開催した機関・団体と信頼関係の構築ができ、早期対応にもつながった。
				【弱みと考える点】 自治会単位でのオレンジサポーター養成講座が不十分である。 シルバーサポーターの活躍できる場について検討が深められていない。
その他				【強みと考える点】
				【弱みと考える点】

【達成度】…5（十分に取り組んでおり、目指す成果に至った）／4（概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった）／3（一部着手したが、取り組んでいない部分がある）／2（取組計画の立案等はしたが、着手できなかった）／1（取組計画の立案等に至らなかった）

令和4年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	ふたみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	二見

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	●センター発行の新聞を全戸配付することで、全世代を対象とした生活課題について早期発見・早期相談できる体制を整備する。	3	●新聞の発行を通じて、幼稚園・小中学校の学校関係者、高齢者が多く集まる上西厚生館・西部文化会館・高齢者ふれあいの里、関係機関との地域支援ネットワークの構築に努めた。	【強みと考える点】 ・左記の関係機関との協力関係がある。
				【弱みと考える点】 ・左記関係機関等と関係性がない世帯では、問題が重症化する傾向にある。
権利擁護事業	●住民同士が権利擁護について考える機会を設ける。	5	●住民、介護サービス事業所等に対して、特殊詐欺を未然に防ぐ事を目的としたチラシの配布を行った。その結果、「金銭搾取には至っていないが未遂に終わったケース」などの情報を収集することが出来た。 ●圏域の介護支援専門員に対して訪問での高齢者虐待防止を目的としたチラシの配布と意見交換を実施した。	【強みと考える点】 ・地域活動が活発であることに加え、センターと介護サービス事業所との関係性が構築されているため、啓発活動や情報収集をより広い範囲で行うことができる。 ・介護支援専門員との意見交換により、さらなる関係性の構築に繋がった。
	●地域の専門職が高齢者虐待対応・防止におけるセンターや各関係機関の役割を理解し、専門職などが早期にセンターへ繋ぎ、対応することができる。			4
包括的・継続的ケア相談支援事業	●介護支援専門員が包括的・継続的ケアマネジメントを実践できるよう、地域課題、地域資源の情報を共有する場をつくる。	3	●年4回二見守ろう会を開催し、介護支援専門員が地域住民との交流、地域資源や地域課題等の情報共有、意見交換の場を持つことができた。 ●地域の介護支援専門員を対象に防災の取組として、「明石市個別避難計画」作成について等の研修を行った。	【強みと考える点】 ・二見守ろう会や研修、事例検討会の開催により、介護支援専門員同士が交流する機会となっている。 ・センターと顔の見える関係が介護支援専門員との良好な連携を促進している。
	●定期的に地域の介護支援専門員同士が集まり、対応力の向上を目指す。			4
地域ケア会議	●全世代の支援に繋げるために、抽出した地域課題に対して、テーマに即した会議体をもって協議する。	3	●新型コロナウイルス感染症蔓延のため2年間中止していたまちなかゾーン会議を「コロナ禍の健康問題について」をテーマにし、構成メンバーを再編して再開した。(年2回) ●次年度以降はフレイル予防をテーマに社会参加の場づくりや、運動習慣について協議を行う予定。	【強みと考える点】 ・まちなかゾーン会議にて、地域課題について活発な意見交換が期待できる。
				【弱みと考える点】 ・新規構成員となったまちなかゾーン会議であるため、会の意義を丁寧に共有する機会が必要となっている。

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
介護予防 マネジメント・指定介護予防支援	●各関係機関と連携し、サロン等の住民参加の場を通じて、社会参加が介護予防につながる啓発を行う。	4	●上西厚生館の事業と協働し、まちの保健室、二見守ろう会、福祉用具事業者とセンターでの体力・健康測定会や介護予防教室を年3回実施。 ●センターと二見守ろう会で、西部文化会館や高齢者ふれあいの里、地区のサロン等で、計12回の介護予防教室を実施。 ●二見地区社協と協働し、自宅でできるフレイル予防体操について検討を行った。	【強みと考える点】 ・教室等の開催に協力的な機関・団体がある。 【弱みと考える点】 ・市営・県営等の集合住宅地域には高齢者が多く居住し、フレイル予防が必要であるため、まずは啓発について協議する必要がある。
生活支援 体制整備 事業	●住民、関係機関、地縁組織、企業等との新聞発行を通じて地域課題を共有し、資源開発につなげる協議を行う。	4	●二見地区連合まちづくり協議会が主催する合同文化祭の中で、学生と地域住民が同じ立場で地域課題を考えるサミットを開催した。その結果、学生とまちづくり組織とのつながり構築に寄与した。	【強みと考える点】 ・学校と自治会やまちづくり組織、ボランティア団体等の地縁組織のつながりが強固である。 【弱みと考える点】 ・センターと地縁組織との関係性構築をより進めていく必要がある。
在宅医療 介護連携	●二見地区の医療機関の巡回を行い、必要な情報を関係者で共有できるように取り組む。 ●住民の死生観を踏まえた啓発を図るため、サロンで人生会議をテーマに意見交換の場を設ける。	4	●地域の4つの医療機関を訪問し、業務に必要な情報を確認するとともに、地域総合支援センターの役割についても医師へ直接伝えることができ、個別ケア会議など、今後どのように連携できるのか確認してもらうことができた。 ●ACPIに関する講話を3回開催した。そのうち1回は参加者同士の意見交換の場を設けた。	【強みと考える点】 ・地域の医療機関と連携を図る基盤づくりができた。今後実際どのように連携を図っていくのか検討していきたい。 【弱みと考える点】 ・地域住民へのACPIの周知が不十分のため、伝わりやすい方法の検討が必要。
認知症 総合支援 事業	●住民、企業、学校、関係機関を対象とした認知症の勉強会等で、当事者や家族から聴き取らせていただいた想いを伝える。 ●医療機関、企業、関係機関と課題を共有するため、若年性認知症の勉強会を開催する。	4	●独居生活をされている認知症の方の思いや生活実態をインタビューし、オレンジサポーター養成講座で参加者に紹介し、地域での見守りについて検討してもらうことができた。 ●若年性認知症の方の居場所づくりのため、地域のこどもカフェに協力を仰ぎ、ボランティアとして参加してもらった。カフェのスタッフにも認知症の社会参加の意味について紹介する機会を持った。参加するためには家族の送迎負担という課題があった。	【強みと考える点】 ・地域で認知症を見守ることについて、身近な課題として検討してもらい、具体的な行動を共有することができた。 【弱みと考える点】 ・キャラバンメイトの活動に偏りがあり、負担も増している。交流会等の実施の検討が必要と思われる。
その他				【強みと考える点】 【弱みと考える点】

【達成度】…5（十分に取り組んでおり、目指す成果に至った）／4（概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった）／3（一部着手したが、取り組んでいない部分がある）／2（取組計画の立案等はしたが、着手できなかった）／1（取組計画の立案等に至らなかった）